

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
看護学概論 I	1年次	前期	1	30	久保田

授業概要

看護の基本となる看護の概念や看護の歴史的変遷から、変化・発展し続ける職であることを理解するとともに、看護理論をもとに看護の本質を学び専門職としての機能や役割、目まぐるしく変化する社会状況に対応する看護の場を学習する。また、看護職としての倫理的判断の基盤となる内容やこれからの看護についても学習する。

回	教科書頁	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書p2～5 教科書p6～14	1. オリエンテーション 1)看護学概論で学ぶこと 2. 看護は誰のために何のために 1)「看護」の言葉の意味から考える 2)ナイチンゲールの看護	講義
2	教科書p214 ～216	1. 看護とは何か 1)看護の定義から考える ①日本看護協会・国際看護師協会の定義 ②看護理論家の看護とは何か 2. 看護師とは何をする人か 1)法律から考える 2)看護職について	講義
3		看護とは何か	講義 DVD視聴
4		DVDを観て映像の中の何が看護科を討議する。	グループ ワーク
5	資料	1. 看護とは何をするのか 1)看護の役割と機能 (1)看護の役割は、①健康の保持・増進 ②疾病の予防・健康 の回復 ③苦痛の緩和 ④ニーズの充足 (2)看護の機能は、①日常生活への支援 ②診療の補助 ③相談・指導 ④調整	講義
6	教科書p304～ 306(巻末使用)	1. 看護師の態度について 1)看護師の態度とは ケアの1日(資料)を読んで、看護師としての態度を考える	講義
7	教科書p118～ 123	1. 看護師の活動の場 1)円グラフから、看護職が働く場を知る 日本看護協会ホームページ“キラリ！看護のシゴト”を視聴する。	講義
8		2)病院の種類と機能 ①病院の種類(病院と診療所) ②病院の機能(入院機能と外来機能)	講義
9	教科書p51～ p82	1. 看護の歴史 看護の歴史から、今求められている看護がわかる	講義
10	教科書p242 ～p257	1. 専門職としての看護 1)専門職とは何か ①専門職の要件 ②専門職能団体	講義
11	教科書p85～ p112	1. 看護実践における重要な概念 1)人間・環境・健康・看護 ①4つの概念について学ぶ	講義
12			講義
13	教科書p14 ～47	1. 看護の理論家と看護理論 ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム 他の看護理論家から、看護実践に必要な理論を知る。	講義
14			講義
15		課題とまとめ	グループ ワーク
評価方法		講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。	
教科書		メヂカルフレンド社:新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 日本看護協会:看護者の基本的責務 2020年版	

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
看護学概論Ⅱ	1年次	後期	1	15	久保田

授業概要

看護の対象となる人間とその健康、めまぐるしく変化する社会状況に対応する保健医療福祉サービスと看護の連携について学習する。

回	授業テーマ	授業内容	授業方法
1	1. 人間の成長発達とライフサイクルを学ぶ 2. エリクソンの発達課題 3. ライフサイクル各期の特徴と健康問題	①成長発達理論を理解する。 ②小児期・成人期・老年期の特徴と健康障害	講義
2	1. 人々が健康の保持・増進を目指すために看護師として知っておくこと 1)健康の指標	①統計データから健康をとらえる ②健康の保持・増進、疾病予防のためのしくみ	講義
3	2)ヘルスプロモーション 3)地域包括ケア	③健康・健全・安寧から健康に生活するための社会のしくみ	講義
4	看護を実践するために知っておくこと、看護師として知っておくこと 1. 病気の経過(病期)の特徴と看護 1)看護技術と安全・安楽・自立 2)患者―看護師の関係 3)看護とインフォームドコンセント 4)コミュニケーション 2. 患者に必要な看護を見出す	①急性期・回復期・慢性期・終末期の特徴と行われる看護がわかる。 教科書p146～178	講義
5	1. 看護はひとりじゃない。チームで看護することの意味とは何か 1)医療安全 2)チーム医療	(1)医療安全に関する知識 ①医療事故 ②医療過誤 ③事故防止対策 (2)チーム医療に関する知識 ①チームとは何か ②リーダーに求められるもの(リーダーシップ) ③他職種との連携 ④連絡・報告・相談の大切さ	講義
6			講義
7	1. 健康になる権利の社会保障制度について理解する。 1)医療保険制度と診療報酬制度	(1)医療保険制度から人々の健康を保障する国のしくみがわかる。 (2)診療報酬制度から、医療・看護サービスの評価がわかる。	講義
8	1. グローバル社会・災害時の看護について知る。 1)国際看護学 2)災害看護学	(1)グローバルな看護が求められる理由 (2)グローバルな看護とはどのようなものか (3)非日常時に求められる看護とはどのようなものか	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論		

授業科目	開講期	開講年次	単位数	時間数	講師
共通基本技術	前期	1年次	1	30	山崎

授業概要

看護技術における基本原則を理解し、看護技術とは何かを学ぶ。主な教授内容は、安全・安楽を守る技術、人間関係を成立させるための技術、看護における記録・報告の技術を習得するものである。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	指定された教科書の範囲を読み、その要約と感想をまとめ、レポートを提出する	1. 看護技術の概念 2. 共通基本技術とは何か	講義	看護技術の概念、共通基本技術とは何かを自分の言葉で語れるよう復習をする
2	該当する教科書の範囲を読んでもくる	3. 観察とは 看護における観察とは(情報収集の手段)	講義	看護における観察とはを自分の言葉で語れるよう復習をする
3	該当する教科書の範囲を読んでもくる コミュニケーションとは何かを考えてくる	5. コミュニケーションとは コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程 効果的なコミュニケーションの実際 ①傾聴の技術 ②情報収集の技術	講義	人間関係を成立させるコミュニケーションについて考える
4	講義資料を読んでもくる	演習①: 観察・コミュニケーション	演習	3回目の事後学習内容を踏まえて演習終了後のレポートを提出する
5	該当する教科書の範囲を読んでもくる	6. 安全とは 1)安全管理の技術 ①看護における安全とは ②安全確保の基礎知識 ③ヒューマンエラーとは ④誤与薬の起こりやすい状況と対策 ⑤転倒・転落の起こりやすい状況と対策 ⑥チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策 ⑦患者誤認の起こりやすい状況と対策	講義	看護における安全とは何かを自分の言葉で語れる
6	該当する教科書の範囲を読んでもくる		講義	
7	該当する教科書の範囲を読んでもくる	2)感染予防の技術 (1)感染防止の基礎知識 ①感染成立の条件 ②院内感染の防止 (2)標準予防策(スタンダードプリコーション)の基礎知識 手指衛生 個人防護用具 感染経路別予防策 洗浄・消毒・滅菌 無菌操作 感染性廃棄物取り扱い	講義	指定された技術について根拠のある援助方法を作成していく

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
8	講義資料を読んでもくる	演習②:安全管理の技術 1)衛生的な手洗い法の実施 2)滅菌物取り扱いの原理原則に基づいた実施 ガウンテクニック・滅菌手袋の装着・滅菌操作	演習	指定された技術について根拠のある援助方法を作成する
9	講義資料を読んでもくる		演習	
10	該当する教科書の範囲を読んでもくる	7. 安楽とは 1)姿勢の基礎知識 2)ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 3)体位の種類と特徴および身体への影響 4)身体ケアを通じてもたらされる安楽 ①体位保持(ポジション)の意義と安楽な体位保持 ②褥法の種類と適応 ③リラクゼーション	講義	ボディメカニクスとは何かが自分の言葉で言える 指定された技術について根拠のある援助方法を作成する
11	講義資料を読んでもくる	演習③:安楽確保の技術 1)実際にベッドを利用し、ボディメカニクスの活用 2)基本体位を基準に安楽な体位保持の援助 3)マッサージ・呼吸法・褥法	演習	指定された技術について根拠のある援助方法を作成する
12	講義資料を読んでもくる		演習	
13	該当する教科書の範囲を読んでもくる	8. 自立(教育・指導)への援助技術 1)看護における教育・指導とは 2)個別指導・集団指導の特性、適応、メリット・デメリット	講義	指定された技術について根拠のある援助方法を作成する
14	講義資料を読んでもくる	状況設定に基づいた技術の実施 (1)コミュニケーション技術 (2)観察の技術 (3)安楽確保の技術 ①安楽な体位(安楽枕の使用) (4)安全管理の技術 ①無菌操作 ②滅菌包みの開け方 ③滅菌手袋の着脱 ④ガウンテクニック 1)グループで教員の指導助言を受けて技術を考える 2)グループで教員の指導助言を受けて技術を習得する	演習	教員からの助言を、作成した資料に反映させ、追加・修正をし、さらに練習をする
15	講義資料を読んでもくる		演習	
評価方法		講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・ペーパー試験・実技試験で総合的に評価する。 ただし、ペーパー試験および実技試験の両方が合格点に満たしていなければ、単位の取得は難しい。		
教科書		医学書院:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護学技術Ⅱ メディックメディカ:看護がみえるvol. ① 基礎看護技術		

授業科目	開講期	開講年次	単位数	時間数	講師
日常生活援助技術Ⅰ	前期	1年次	1	30	佐藤山賀

授業概要

対象の日常生活における看護援助の必要性を学ぶ。主な教授内容は、環境を整える援助技術、睡眠・休息を促す援助技術、活動を促す援助技術、食事の援助技術を習得する。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	該当する教科書の範囲を読んでくる	環境とは何か 療養生活の場としての環境 1)治療の場としての環境・生活の場としての環境 ①病棟・病室の選択 ②物的環境 (温度・湿度・光と音・色彩・においなど) ③人的環境 (医療従事者・面会者・同室者など)	講義 グループワーク	復習
2	該当する教科書の範囲を読んでくる	病床の環境整備 1)病床とは何か 2)病床環境を整える目的	講義	復習
3	該当する教科書の範囲を読んでくる	病床環境を整える技術 1)環境整備 2)ベッドメイキング	講義	復習
4	該当する教科書の範囲を読んでくる	活動・休息とは何か 1)人間にとっての活動と休息の必要性 基本的欲求「姿勢」・基本的欲求「休息と睡眠」 2)活動・休息の制限による障害 ①体位変換の必要性	講義	復習
5	講義資料を読んでくる	活動の援助技術 1)体位変換 (1)体位の種類(仰臥位・側臥位・腹臥位・座位) (2)体位変換の方法 ①身体への触れ方と動かし方 ②体位変換時の留意点	演習	演習のまとめ
6	講義資料を読んでくる	2)動作 (1)動作の種類 (寝返り動作・起き上がり動作・立ち上がり動作)	演習	演習のまとめ
7	講義資料を読んでくる	活動の援助技術 3)移動動作の介助技術 ①歩行介助 ②歩行器介助	演習	演習のまとめ
8	講義資料を読んでくる	(4)移乗・移送の技術 ①車いす ②ストレッチャー	演習	演習のまとめ

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
9	飲食の生理機能(食欲・食物の知覚)を調べる 「私にとって食事とは何か」	食事とは何か 1)人間にとって食事の必要性 基本的欲求「飲食」・食行動 2)栄養状態のアセスメント	講義	復習
10	咀嚼と嚥下のメカニズムを調べる ビデオ視聴「こうすれば食べられる」	食事に対する障害 (1)咀嚼・嚥下・消化・吸収障害とケア (2)食欲不振のケア (3)食行動の制限 食事のマナー	講義	「おいしく食事をするためには、どうすればよいか」課題をまとめる
11	該当する教科書の範囲を読んでくる	経口摂取不可能な患者の栄養摂取手段 ①経管栄養法 ②経静脈栄養法	講義	復習
12	該当する教科書の範囲を読んでくる	食事の援助技術 (1)経口摂取が可能な状態(食事介助) (2)経口摂取が困難な状態(経管栄養法)	演習	演習のまとめ 演習後レポート提出
13	講義資料を読んでくる		演習	
14	講義資料を読んでくる	状況設定に基づいた技術の実施 ①環境整備とベッドメイキング ②体位変換と車いすの移乗・移送 ③食事介助 1)グループで教員の指導助言を受けて技術を考える 2)グループで教員の指導助言を受けて技術を習得する	演習	演習のまとめ
15	講義資料を読んでくる		演習	演習のまとめ
評価方法		講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・ペーパー試験・実技試験で総合的に評価する。 ただし、ペーパー試験および実技試験の両方が合格点に満たしていなければ、単位の取得は難しい。		
教科書		医学書院:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護学技術Ⅱ メディックメディカ:看護技術がみえるvol. ① 基礎看護技術		

授業科目	開講期	開講年次	単位数	時間数	講師
日常生活援助技術Ⅱ	前期	1年次	1	30	佐藤

授業概要

対象の日常生活における看護援助の必要性を学ぶ。主な教授内容は、排泄の援助技術、衣生活・身体
の清潔の援助技術を習得する。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	皮膚・粘膜の解剖生理を学習しておく	1. 人間にとって、健康にとって清潔とは何か 2. 清潔援助の効果とその根拠 3. 清潔援助に必要な知識 1)皮膚・粘膜の解剖生理と皮膚の発疹 2)温熱作用・静水圧作用・浮力作用 3)清潔援助が身体に与える影響	講義	復習
2	該当する教科書の範囲を読んでくる	1. 清潔援助の種類と特徴(浴・浄・拭) 1)入浴・洗浄・清拭の汚れの除去の違い 2)入浴・洗浄・清拭のエネルギー消耗の違い 3)入浴・洗浄・清拭の対象の違い 2. 清潔援助における安全と安楽 3. 清潔援助の効果を得るための直接的行為	講義	復習
3	該当する教科書の範囲を読んでくる	1. 人間にとって、健康にとって排泄とは何か 2. 排泄援助に必要な知識 1)排尿・排便のメカニズム 2)排尿障害と排便障害 3)自然な排泄と人工的な排泄 3. 対象に適した排泄方法の決定	講義	復習
4	講義資料を読んでくる	1. 自然な排泄を促す援助 2. 排泄援助における安全・安楽 3. ベッド上排泄(尿器・便器)の技術の習得	講義 演習	復習
5	該当する教科書の範囲を読んでくる	1. 人間にとって、健康にとって衣生活とは何か 2. 衣服の機能と障害(衣服の安全と安楽) 3. 病衣の条件と種類	講義	復習
6	講義資料を読んでくる	1. 臥床患者の寝衣交換の技術 ①和式寝衣 ②パジャマ 教員のデモンストレーション見学後に実施する	演習	復習
7	講義資料を読んでくる	2. 臥床患者の手浴・足浴の技術	演習	復習
8	講義資料を読んでくる	3. 臥床患者の洗髪の技術	演習	復習
9	講義資料を読んでくる	4. 口腔ケア(含嗽・歯磨き・清拭)の技術	演習	復習

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
10	講義資料を読んでもくる	5. 人工的排尿の技術習得 (導尿・膀胱留置カテーテル) 教員のデモンストレーション見学後に実施する	演習	復習
11	講義資料を読んでもくる	6. 人工的排便(摘便・浣腸)の技術習得 教員のデモンストレーション見学後に実施する	演習	復習
12	講義資料を読んでもくる	1. 全身清拭・陰部洗浄の根拠を捉えた正しい援助技術を習得する 全身清拭目的: 1)皮膚や粘膜の汚れを除去し、温かくて爽快感が得られる清拭の技術が提供できる。 陰部洗浄目的: 1)皮膚や粘膜の汚れと臭いを除去し、感染を防止する 陰部洗浄の技術が提供できる。	演習	復習
13	講義資料を読んでもくる	持続的導尿目的: 1)滅菌操作の技術を使って、苦痛を最小限にしてバルンカテーテルを尿道に挿入し尿を流出させられる。 2)膀胱内の感染防止および、バルンカテーテル抜去防止のための膀胱留置カテーテル管理ができる。	演習	復習
14	講義資料を読んでもくる	状況設定に基づいた技術の実施 ①清拭・陰部洗浄・洗髪 ②持続的膀胱留置カテーテルの挿入と管理 1)グループで教員の指導助言を受けて技術を考える	演習	復習
15	講義資料を読んでもくる	2)グループで教員の指導助言を受けて技術を習得する	演習	復習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・ペーパー試験・実技試験で総合的に評価する。 ただし、ペーパー試験および実技試験の両方が合格点に満たしていなければ、単位の取得は難しい。			
教科書	医学書院:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護学技術Ⅱ メディックメディカ:看護技術がみえるvol. ① 基礎看護技術			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
臨床看護総論	1年次	後期	1	30	大貫

授業概要

健康レベルに焦点を当て、障害、疾病を持つ対象とその家族の問題を解決するために看護の取り組みについて理解する。また、各期に特徴的な症状、治療、処置に共通する看護を学ぶ。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	自分の家族が急に入院したらどう思うか考えてくる	1. 臨床看護とは 2. 臨床看護における対象者の理解 3. 臨床看護の現場	講義	復習 まとめ
2	死についての考えをレポートする	4. 健康障害の経過から見た看護 1)健康障害のレベルとしての経過とは 2)急性期を経験している患者の看護 3)回復期を経験している患者の看護	講義	復習 まとめ
3	体温の定義 体熱の平衡 (賛成と放散)	5. 生命維持/日常生活に影響を及ぼす障害と看護 1)呼吸が障害されるということ 2)呼吸運動の調節のしくみ、呼吸困難の定義 呼吸困難のメカニズム、呼吸困難の治療・処置 呼吸困難患者のアセスメント 呼吸困難患者の看護 3)体温調節のしくみ、発熱の定義 発熱のメカニズム 発熱の治療・処置 発熱のアセスメント 発熱のある患者の看護	講義	復習 まとめ
4	正常な呼吸 呼吸の定義 生理的な変動要因 異常呼吸	演習①—吸入(ネブライゼーション・酸素吸入) 1)酸素ボンベの種類(残量計算方法) 2)酸素吸入の方法と濃度 3)創傷処置(創の治癒過程) 4)超音波ネブライザーの実施 5)酸素ボンベの取り扱い(流量計の接続方法) 6)酸素流量計の合わせ方 7)酸素カニューレの装着 8)モデル使用の創傷処置	演習	復習 まとめ
5		演習②—吸引(口腔・鼻腔・気管の吸引) 演習③—体位ドレナージ	演習	復習 まとめ
6		演習④—創傷処置(モデル人形に行う)	演習	復習 まとめ
7	無菌操作の復習	6. 創の治癒過程 演習④—創傷処置(モデル人形に行う)	演習	復習 まとめ
8	循環器系の解剖生理	7. 慢性期疾患に見られる症状:血圧上昇 血圧調節のしくみ、高血圧の定義 高血圧の定義、高血圧の分類とメカニズム 高血圧の治療・処置 高血圧患者のアセスメント 高血圧患者の看護	講義	復習 まとめ
9		8. 慢性期疾患に見られる症状:浮腫 浮腫の定義 浮腫発生のメカニズム 浮腫の治療・処置 浮腫のある患者のアセスメント 浮腫のある患者の看護	講義 演習	レポート提出
10		演習⑤—浮腫の測定		

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
11	運動器系の解剖生理	9. 回復期疾患に見られる症状:運動麻痺 運動麻痺の定義 傷害部位による運動麻痺の分類とメカニズム 運動麻痺の治療・処置 運動麻痺患者のアセスメント 運動麻痺患者の看護	講義	復習 まとめ
12		演習⑥—演習松葉杖え歩行	講義 演習	レポート提出
13		10. 終末期疾患に見られる症状:脱水 脱水の定義 脱水のメカニズム 脱水の治療・処置 脱水患者のアセスメント 脱水患者の看護	講義	復習 まとめ
14		11. 治療法と看護 インフォームドコンセント 安静療法と看護 食事療法と看護 薬物療法と看護	演習	レポート提出
15		11. 治療法と看護 化学療法と看護 放射線療法と看護	講義	復習 まとめ
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。			
教科書	メヂカルフレンド社:新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社:臨床看護学叢書2 経過別看護 メディックメディア:看護がみえる②臨床看護技術			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
フィジカルアセスメント	1年次	後期	1	45	小川 佐藤・山賀

授業概要

人間の身体情報を客観的に捉え、その情報を意味づけすることを学ぶ。主な教授内容は、身体情報を客観的に得るためのフィジカル・イグザミネーション、身体計測、検査方法の技術を習得するものである。また情報の意味づけをするための問診やアセスメントについても触れる内容とする。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	教科書を読んで質問を書いておく	1. ヘルスセサメントの概念 ヘルスアセスメントとは何か 情報の意味づけとは 2. フィジカルアセスメントの総論 フィジカルアセスメント フィジカルイグザミネーション バイタルサイン 一般・系統別レビュー	講義	まとめ
2	該当する教科書の範囲を読んでくる	ヘルス・フィジカルアセスメントに必要な技法 (健康歴・病歴聴取の仕方、臨床看護の面接技法、診察評価の仕方)	講義	まとめ
3			講義 演習	まとめ
4	課題(呼吸器系の解剖生理)を学習しておく	呼吸系のフィジカルアセスメント 胸郭における肋骨・肋骨・肺・気管支の同定方法 呼吸の正常・異常 呼吸音(正常呼吸音・複雑音)	演習	演習のまとめ
5	講義資料を読んでくる	呼吸器のフィジカルアセスメント 呼吸音聴取(シミュレーションを使用) 胸郭のアセスメント・横隔膜可動範囲の測定	講義	まとめ
6	課題(循環器系の解剖生理)を学習しておく	循環器のフィジカルアセスメント 心臓の位置や大きさ 脈拍・血圧のしくみと正常・異常	演習	演習のまとめ
7	教科書を読んでくる	循環器のフィジカルアセスメント 心音聴取・脈拍測定・中心静脈圧の測定 末梢循環不全の評価	講義	まとめ
8	教科書を読んでくる	バイタルサインとは何か 体温・意識のしくみ 体温計・血圧計の原理 バイタルサイン測定	演習	演習のまとめ
9	教科書を読んでくる		講義	まとめ
10	講義資料を読んでくる		演習	演習のまとめ
11	教科書を読んでくる	消化系・腹部(肝臓・腸・腎)のフィジカルアセスメント ①食物摂取(口腔内)・嚥下機能(咽頭反射)のアセスメント ②腹部の視診・触診・聴診(腸蠕動音)・ ③打診(肝臓の大きさ・腹水の有無)	講義	まとめ
12	講義資料を読んでくる		演習	演習のまとめ
13	教科書を読んでくる	脳神経・感覚器のフィジカル・アセスメント ①眼位の正常・異常(斜視・眼球突出) ②眼球運動・視力・視野の正常・異常 ③聴力のスクリーニングと伝音性・感音性難聴の鑑別 ④皮膚知覚・深部知覚の評価	講義	まとめ
14	講義資料を読んでくる		演習	演習のまとめ

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
15	教科書を読んでくる	運動器のフィジカル・アセスメント ADL・歩行のアセスメント 関節可動域の測定 筋力のスクリーニング・筋力の測定と評価(MMT) 平衡機能の評価	講義	まとめ
16	講義資料を読んでくる		演習	演習のまとめ
17	教科書を読んでくる	意識状態のフィジカル・アセスメント 意識状態の測定(意識の評価) 瞳孔及び対光反射・呼吸パターン・筋トーン	講義	まとめ
18	講義資料を読んでくる		演習	演習のまとめ
19	講義資料を読んでくる	身体測定(身長・体重・胸囲・腹囲・視力検査)	演習	演習のまとめ
20	講義資料を読んでくる	身体測定(身長・体重・胸囲・腹囲・視力検査)	演習	演習のまとめ
21	講義資料を読んでくる	症状・徴候のアセスメント 1)グループで教員の指導助言を受けて技術を考える 2)グループで教員の指導助言を受けて技術を習得する (1)症状・徴候に関連した解剖生理の理解 (2)症状・徴候から身体情報の収集 (3)症状・徴候から身体に起きていることをアセスメントする 「胸が痛い」「息が苦しい」「咳が出る」 「おなかが痛い」 「しゃべりにくい」「見えにくい」 「思ったように体を動かせない」	演習	演習のまとめ
22	講義資料を読んでくる			
23	講義資料を読んでくる			
評価方法		講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・ペーパー試験・実技試験で総合的に評価する。 ただし、ペーパー試験および実技試験の両方が合格点に満たしていなければ、単位の取得は難しい。		
教科書		医学書院:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護学技術 I メディックメディカ:フィジカルアセスメントがみえる		

授業科目 看護過程	開講年次 1年次	開講期 後期	単位数 1	時間数 30	講師 久保田
--------------	-------------	-----------	----------	-----------	-----------

授業概要

看護の対象に対する健康上の課題を解決するための思考過程の基礎を学ぶ

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	教科書を読んで くる	看護過程とは 1)看護過程を身に着ける理由 2)看護過程の考え方 ①一般的な考え方の道筋 ②看護師の考え方の道筋 ③看護師の頭の中	講義	講義の復習
2	教科書を読んで くる	看護過程とは 2)看護過程の考え方 ④看護の理論家の視点を使う ⑤論理的思考を身につけている ⑥倫理的配慮について	講義	講義の復習
3	教科書を読んで くる	看護過程の頭づくり 1)「情報を収集する」とは ①観察力を身につける ②情報を収集する ③観察したことを知識と結びつける 2)情報の統合 3)問題解決に向けた思考の流れ	講義	講義の復習
4	教科書を読んで くる	思考過程としての看護過程 1)看護過程のステップ 2)アセスメント ①情報収集 ②情報の分類 ③患者関連図の作成(病態関連図に基づいた患者情報の整理) ④情報の分析と統合	講義	グループで話しあい、まとめる
5	教科書を読んで くる		講義	講義の復習
6	教科書を読んで くる	思考過程としての看護過程 3)問題の明確化 ①優先順位の考え方 ②看護診断名を用いて問題を記述する方法	講義	グループで話しあい、まとめる
7	教科書を読んで くる	思考過程としての看護過程 4)看護計画 ①患者目標 ②看護計画の立案 5)実施 ①実施内容の記録 ②記録記述時の留意点 6)評価	講義	講義の復習
8	教科書を読んで くる	看護過程を事例で学ぶ 1)ヘンダーソンの看護の視点に沿った看護過程 ①情報収集・アセスメント ②問題の明確化 ③看護計画 ④実施・評価	演習	グループで話しあい、まとめる

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
9	教科書を読んでくる	看護過程を事例で学ぶ 2)オレムの看護の視点に沿った看護過程 ①情報収集・アセスメント ②問題の明確化 ③看護計画 ④実施・評価	演習	講義の復習
10	教科書を読んでくる	看護過程を事例で学ぶ 3)ロイの看護の視点に沿った看護過程 ①情報収集・アセスメント ②問題の明確化 ③看護計画 ④実施・評価	演習	課題事例についてグループでまとめる
11	必要な文献等を準備する	看護過程の実際 提示された課題をもとに看護過程を展開する ヘンダーソンの看護の視点に沿って展開する	演習	課題事例についてグループでまとめる
12	必要な文献等を準備する	看護過程の実際 ①情報収集・アセスメント	演習	課題事例についてグループでまとめる
13	必要な文献等を準備する	看護過程の実際ト ②問題の明確化 ③看護計画	演習	課題事例についてグループでまとめる
14	必要な文献等を準備する	看護過程の実際ト ④実施 ⑤評価	演習	課題事例についてグループでまとめる
15		「課題事例」発表、まとめ		
評価方法		講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書		医学書院:はじめて学ぶ看護過程 医学書院:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護学技術 I		

授業科目 基礎看護技術演習Ⅰ	開講年次 1年次	開講期 後期	単位数 1	時間数 45	講師 岩瀬・張替 佐藤
-------------------	-------------	-----------	----------	-----------	-------------------

授業概要				
事例を用いて、対象の日常生活を支援するための援助技術を習得する。				
回	授業目標	授業内容	授業方法	備考
1	1)オリエンテーションを通してこの授業で、身につく知識と技術がわかる 2) 事例の解説を聞いて、必要な看護介入がわかる。	(1)授業目的についてオリエンテーションの実施 (2)グループの発表と事例の提示 (3)事例の説明(看護過程で用いた急性期・回復期にある肺炎の患者) (4)必要な援助	講義	授業に向けて、肺炎の診断と治療、合併症について復習しておく。
2	1)肺炎についての知識が身につく 2)肺炎の事例に必要な看護がわかる。	(1)肺の解剖生理と検査について理解する。 (2)肺炎になると肺の状態がどうなるのか、それに伴う症状および合併症について理解する。	講義	関連図を作成しておく
3	1)事例の対象に必要な日常生活援助と必要な理由がわかる。	(1)事例の対象はどのような入院生活を送るのか日常生活援助(環境・食事・排泄・休息・活動・清潔・寝衣・安全・安楽)を通して考える。 (2)事例の対象に必要な日常生活援助を考える。	演習	グループで話しあい、まとめる
4	1)毎日の援助計画を立案する。	(1)行動計画用紙を使って、本日実施しなければならない援助を記入する。	演習	看護過程の資料を参考にする
5			演習	
6	1)臥床患者のリネン交換の技術を習得する	(1)講義および技術のデモンストレーションを見る (2)臥床患者のリネン交換の技術を実施する	演習	看護が見える(基礎看護技術)・基礎看護技術ⅠⅡの教科書を持ってくる
7		(3)臥床患者のリネン交換の技術を実施する	演習	
8		(4)臥床患者のリネン交換の技術を実施する	演習	
9	1)計画に基づいて援助を実践する。(環境整備)	(1)環境整備の目的と実施時期を明確にする。 (2)技術の実施における安全・安楽を意識する。 (3)技術習得のポイントがわかる。	演習	用紙に援助の目的と実施方法(OTE)を記入する
10			演習	
11	1)計画に基づいて援助を実践する。(食事および手浴)	(1)食事援助の目的と実施時期を明確にする。 (2)技術の実施における安全・安楽を意識する。 (3)技術習得のポイントがわかる。	演習	用紙に援助の目的と実施方法(OTE)を記入する
12			演習	
13	1)計画に基づいて援助を実践する。(排泄および陰部洗浄)	(1)排泄援助の目的と実施時期を明確にする。 (2)技術の実施における安全・安楽を意識する。 (3)技術習得のポイントがわかる。	演習	用紙に援助の目的と実施方法(OTE)を記入する
14			演習	

回	授業目標	授業内容	授業方法	備考
15	1)計画に基づいて援助を実践する。(休息および活動)	(1)休息・活動援助の目的と実施時期を明確にする。 (2)技術の実施における安全・安楽を意識する。 (3)技術習得のポイントがわかる。	演習	用紙に援助の目的と実施方法(OTE)を記入する
16			演習	
17	1)計画に基づいて援助を実践する。(清潔および寝衣交換)	(1)清潔・寝衣交換援助の目的と実施時期を明確にする。 (2)技術の実施における安全・安楽を意識する。 (4)技術習得のポイントがわかる。	演習	用紙に援助の目的と実施方法(OTE)を記入する
18			演習	
19	1)患者の安全・安楽について考える。	(1)実施しようとする援助から、何が安全・安楽なのかを考える。	演習	グループで話しあい結論をだす。
20			演習	
21	1)評価を通して、目標および援助計画を見直す。	(1)行動目標が看護問題の問題解決に向かっているのか評価して修正する。 (2)援助計画の内容を評価し修正する。 (3)1日の行動計画を見直し、時間管理を行う。	演習	最終の援助計画を作成し提出する
22			演習	
23			演習	
評価方法		講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・実技試験で総合的に評価する。		
教科書		教科書はとくにはないが、医学書院の基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ、メディックメディアの看護が見える・フィジカルアセスメントがみえるなどを使用する。 また、共通基本技術、日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント、診療の補助技術といった授業資料を参考にする。		